

## ノビタキ(ヒタキ科) 全長13センチ

毎年、春と秋の出会いを楽しみにしている小鳥です。

早春の里地里山に山野草が顔を出し始める頃、暖かい春風を引き連れてきたかのように姿を見せました。この時季、白黒のコントラストが鮮やかなオスは、遠目でも簡単に見つけられるほどです。畑や草地の中で、周辺より少し背の高い杭などにとまっているのをよく見かけます。地上の昆虫などを狙っているのでしょう。



4月17日 オス、真っ黒い頭で男らしさを表現か？。

杭の上からパッと飛び立つと、再び元の位置に戻ってくることが多いので、撮影には好都合です。本州での繁殖地は広い草原のある山地に限られ、北海道では平地の草原と言われています。この地には渡りの途中に立ち寄ったものでしょう。

4月中旬頃飛来し、10日間ぐらいで姿がみえなくなりました。



4月17日 メス、クリアとした目がかわいいネ。



4月14日 オスの後姿。

そして9月中旬、田んぼが黄色く染まり始めた頃再び現れてくれました。ススキやヨシの穂先がお気に入りようです。

既に冬羽に衣替えし、オス、メスどちらも茶褐色で、雌雄の区別がつかないくらいよく似ています。4、5羽から10羽程度の群れで行動していることが多いようです。1羽が砂利敷の農道に降り、青虫をくわえると左右に振り回してから飲み込みました。



9月2日 メス。ヨシの穂先で地上の獲物を狙ってます。



9月2日 オス。飛び立つ瞬間。

収穫の秋を迎えた大仙市の田んぼ。

この地で十分に体力をつけてから、越冬地の南へと向かっていくことでしょう。来年まで暫くのお別れです。